

■ VISTA 5 ユーザーレポート

株式会社サンテレビジョン 様

VISTA 5



音声機材車とニューススタジオ・受けサブを STUDER 製品で統一更新



サンテレビジョン様は、2008年2、3月に音声機材車とニュースサブを更新。音声機材車にVista 5、ニュースサブにOnAir 3000を採用され、既に稼働中の制作サブのD950M2と合わせ、音声卓をSTUDERで統一していただくことになりました。

株式会社サンテレビジョン
技術局
能美 俊一

地上デジタル放送開始

サンテレビジョンでは、2003年から始まった地上デジタル放送に対応すべく、局内外の放送基幹設備のHD化更新を順次進めていく過程において、弊社では特に野球中継等のスポーツ番組を重点的に扱うため、まず局外放送対応設備(中継車・受けサブ・報道系)から着手しました。



HD大型中継車を2008年1月に更新した後、すぐにニュースサブ・受けサブの設備を更新(本紙26ページを参照)、さらに3月には、5.1サラウンドに対応可能な音声機材車の更新を行い、局外中継・リモート素材に対応するHD化を一気に完了した次第です。

新音声機材車

弊社の中継業務の運用形態は、音声専用中継車を用意するのではなく、2tにも及ぶ中継機材の搬送との併用を基本としています。このような併用式とすることで車輛運用効率の向上を図りつつも、少しでも快適な音声制作環境を創造することを目的として、新しい音声機材車を検討することになりました。当然、昨今の排ガス規制・各種法令に対するコンプライアンスの遵守を考慮した言うまでもありません。

音声卓の選定基準

調整卓の選定に当たっては、通常基本的にワンマンオペレートでの運用が可能であることが大前提となります。そして、局外ではスポーツ中継を中心とした運用が多いため、その用途に柔軟に対応可能であることも重要でした。とりわけ弊社の場合、要員配置も限られている為、どのような制作環境にあっても音声卓の操作性が大きく変わらない事を主眼において機種を選定を行いました。またこの更新のタイミングで、今後ますますニーズが高まるであろう5.1サラウンド音声の制作に必要な制作環境を備えておきたかったという側面も

ありました。以上のような種々の諸要件を満たす車輛とするため、コアとなる音声卓はSTUDERのVista 5 がもっとも適切であると判断しました。旧音声車がSTUDERの「963」であったこと、2002年に更新した第1スタジオ・サブにD950M2を採用したことも、今回Vista 5に決定した理由の1つであることは言うまでもありません。

STUDER JAPANに窓口を一本化

今回の音声機材車の車輛架装・音響設計・システム設計から納車に至る全ての要件については、スチューダー・ジャパンを調達主幹として発注しました。そのため、ユーザー側から見た対応窓口は一本となっただけでなく、結果的に様々な視点で車をまとめていただくことができ、完成度の高い音声機材車に仕上がったと思います。

